

体制

総合科学技術・イノベーション会議（CSTI）

議長：内閣総理大臣 構成員：関係閣僚＋有識者議員

イノベーション戦略調整会議（CSTI内の組織として設置）

【構成員】

議長：内閣官房長官

副議長：科学技術政策担当大臣

兼 IT、知財、宇宙担当

構成員：経済再生、健康・医療

兼 経済財政政策担当大臣

規制改革担当大臣

海洋政策担当大臣

総務大臣

外務大臣

財務大臣

文部科学大臣

厚生労働大臣

農林水産大臣

経済産業大臣

国土交通大臣

環境大臣

防衛大臣

科学技術・イノベーション政策強化推進チーム

チーム長：和泉総理大臣補佐官

構成員：司令塔会議事務局・各省の局長・審議官級

主要テーマ毎にタスクフォースを設置し、政策強化推進を実施

今後のスケジュール（案）

12月 CSTI本会議 *総理：統合戦略策定指示

1月 総理施政方針演説

2月2日 イノベーション戦略調整会議(第1回)

イノベーション戦略調整会議（第2回）

CSTI本会議（関係会議と連携する可能性もあり）（P）

イノベーション戦略調整会議（第3回）

6月 統合的かつ具体的なイノベーション戦略決定

1. 全体目標と進め方

- ◆目標：世界最高水準の「イノベーション国家創造」
- ◆戦略：「グローバル目標」の設定／基礎研究から社会実装まで「一貫通貫の戦略」

（我が国の直面する課題）

- 技術シーズが「創業や社会実装」に結び付かない
- 「破壊的イノベーションが進展する世界」との比較においてスピード、スケール、深さに歴然とした差が存在
- さらに近年「研究開発レベルも相対的に低下」（例：論文引用数や大学ランキング）
- 米中との比較においてデジタル化やシェアリングエコノミーへの対応も劣後

（今後の取組）

- 世界との目標で「達成すべきグローバル目標」（ベンチマーク）を設定
- 「科学技術」に加え創業や社会実装等の「イノベーション」を戦略対象として重視
世界市場獲得も視野に
- 目標達成に至るまでの「論理的道筋」を設定

（当面の重点（案））

- 次期統合戦略は当面の喫緊の課題である①「Society5.0の基盤構築」、②「大学改革/若手活躍推進/産学連携/研究力強化」、③「新SIP/PRISMを通じたイノベーションの創出」に焦点
- 併せて昨年打ち出した、④「知の基盤整備」（エビデンスベース）、⑤「政府予算イノベ転換施策」を強化
- 今後の課題として⑥「創業」、⑦「社会変革」、⑧「国際展開」、⑨「安全・安心」の方向性を打ち出し 等

統合イノベーション戦略の骨格（横断的施策）

2. 主要横断的施策

- ◆ シーズ⇒人材⇒ビジネス化⇒社会変革⇒国際展開に至る「総合的包括的改革」
- ◆ イノベーション創出を支える「基盤の構築」（データ連携/知の基盤）

<具体的な施策例>

項目（関係省庁）	課題	施策例
大学改革、若手研究者活躍 （再生、総、財、文、厚、 経 等）	<ul style="list-style-type: none"> ● 管理型運営、硬直化した組織・人事 ● 若手の停滞、脆弱な財務基盤 ● 小規模な産学連携 ● 分野融合、国際連携の遅れ 	<ul style="list-style-type: none"> ● 大学ガバナンスコード/人事給与運用指針 ● 大学等再編システムの制度化 ● 組織間産学連携のマネジメント体制強化 ● フラウンホーファー型やアワード型の資金制度 ● 研究者等のグローバルな流動化促進 等
創業 （再生、財、文、経 等）	<ul style="list-style-type: none"> ● 起業家・支援人材の不足、未発達なイノベーションエコシステム ● 縦割の政府の創業支援 ● シーズや制度改革と距離 	<ul style="list-style-type: none"> ● 技術・経営両面で起業家・支援人材育成 ● 官民ファンド等の活用強化 ● 研究開発独法等関係機関の連携強化（支援制度、資金等） ● 国内外の創業ファンドとの連携 等
政府イノベ転換/社会変革 （全省庁）	<ul style="list-style-type: none"> ● 政府事業のイノベ化 ● 破壊的イノベーションに対応した社会制度改革 	<ul style="list-style-type: none"> ● 公共事業等イノベ化の横展開・継続的な実施 ● 日本の法・制度のイノベ化を促進する枠組み創設 等
国際展開 （外、文、経 等）	<ul style="list-style-type: none"> ● 世界のイノベーションと連携 ● 日本発イノベーションを世界展開 	<ul style="list-style-type: none"> ● オープンサイエンスの促進 ● SDGsプラットフォームの構築 等
安全・安心（警、外、文、経、 防 等）	<ul style="list-style-type: none"> ● 防災・減災をはじめとする安全・安心分野への高い技術力の活用 	<ul style="list-style-type: none"> ● 技術力を活用した防災・減災をはじめとする安全・安心機能の強化 ● 技術を管理する体制整備支援 等
Society5.0の基盤構築 （IT本部、再生、健康・医療、総、 文、経 等）	<ul style="list-style-type: none"> ● データ連携基盤の不在 ● 諸外国との連携なし 	<ul style="list-style-type: none"> ● 日本のデータ構造を全体設計 ● 全関係司令塔省庁を挙げて基盤構築 ● 欧米等と10億人規模の連携実現 等
知の基盤構築 （全省庁）	<ul style="list-style-type: none"> ● 政策や予算と成果の関係不明 ● エビデンスを欠いた予算・政策 	<ul style="list-style-type: none"> ● 科学技術イノベーションに係るエビデンスシステムを2020年までに構築 等

統合イノベーション戦略の骨格(個別分野)

3. 個別分野の重点

- ◆ 先端重要分野で世界最先端の戦略を策定 (AI、バイオ、環境エネルギー等)
- ◆ 世界で勝てるシーズを産み出す研究開発体制の構築と社会実装促進

(1) 先端重要分野での世界最先端の戦略策定 (例)

項目 (関係省庁)	課題	方向性
人工知能 (AI) (総、文、経、厚、農、国、 関係司令塔)	<ul style="list-style-type: none"> ● 関係省庁の連携不足 ● 目標の明確化。特にグローバル視点については目標が不十分。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 府省一体の開発体制構築、AI人材不足の解消 (外国人獲得等)、ベンチャー支援策等の具体化を通じ、重点分野※でのAI実装加速
バイオ (健康・医療、文、厚、農、 経、環)	<ul style="list-style-type: none"> ● 現行戦略は2008年に取りまとめられて以降改定されず 	<ul style="list-style-type: none"> ● 農業/医療/製造業等における「課題明確化」と技術開発強化、「ゲノム編集取扱ルール」の整備等社会実装に向けた環境整備
環境エネルギー (総、文、農、経、国、環)	<ul style="list-style-type: none"> ● 既存の「エネルギー基本計画」、「環境基本計画」ではイノベーション/世界市場獲得/デジタル化等の視点が脆弱 	<ul style="list-style-type: none"> ● 環境エネルギー分野でのSociety5.0の実現 ● 世界戦略等を「エネルギー基本計画」や「環境基本計画」等に反映

※生産性、健康・医療/介護、空間の移動

(2) SIP型先端重要分野での研究開発/政府全体への展開

	課題	戦略の方向性
研究体制/分野 (関係司令塔、各分野 所管)	<ul style="list-style-type: none"> ● 終期が迫るSIP型研究開発 (出口重視、府省連携) の発展 (制度改革も視野に) ● SIP型研究開発の全政府展開 	<ul style="list-style-type: none"> ● 新技術動向を踏まえた次期SIPの立ち上げ (次世代サイバー/フィジカル技術等) ● SIPで確立された手法を各府省に展開 (PRISM (来年度当初予算案) を活用)